

太平洋空軍「イノベーション・ラボ」開設 *PACAF innovation lab 'The Dojo' now open*

October 2, 2020

Staff Sgt. Taylor A. Workman
374th Airlift Wing Public Affairs

太平洋空軍は9月25日、横田基地にイノベーション・ラボを新設した。

課題解決のための新たなハブとなるラボ「道場」のプレオープン・イベントには、横田基地の幹部やメンバーたちが集った。このラボは、空軍AFWERXのイノベーションモデルに倣って開設されたYokoWERXによってサポートされている。

YokoWERXのチームは、下士官・将校の空兵、政府の民間人従業員、そして航空自衛隊で構成される。彼らはボランティアとして時間と才能を捧げ、日本初の空軍WERXラボとなるその道場を運用、維持する。

「横田は、共同で課題を解決するための専用の場所を必要としていた。その場所を設け、最先端の機器とアイデアの育成を助ける技術的かつクリエイティブな専門家チームを揃えた」とYokoWERX創設者であり、第374軍支援中隊人事アナリストのジェラルド・アルセノー軍曹は述べた。

YokoWERXのチームは、12,000人以上の基地のメンバーに指導や助言を行うことを念頭に、進歩を加速させるために必要な全ての機能を兼ね備えた共同スペースをデザインした。

「我々の目的は、通常の指揮系統にとらわれることなく、独自に生まれたアイデアに注目し、開発、導入することだ。この道場は、我々のコミュニティに役立つ企画に取り組む全ての人員に開かれている」と、第374空輸航空団イノベーション担当官トビー・エバンス中佐は述べた。

YokoWERXチームは、機材とスキルを活かし、ATMのキーパッド、エレベーターのボタン、公共のドアハンドルなどの人が頻繁に触る面に触れないで使えるようにする非接触ツールを既に300個以上、3Dプリンターを使って作成した。これらの「COVIDキー」は、基地の公衆衛生保護対策に対処すると同時に、道場の機能をマーケティングする最初のステップとなった。

「先見の明がなくても、技術的な専門知識がなくてもいい。我々は、アイデアのある人が、スキルを持った人との出会いを橋渡しし、課題に対する効果的な解決策を見出す機会を提供したいと考えている」と、YokoWERXチームリード兼第374契約中隊契約担当官のジェイコブ・ラブ氏は述べた。

コミュニティに効果的かつ永続的な進化をもたらすため、ラブ氏はこのシステムは協力的で快適であるように作られていると言う。横田基地が一つのコミュニティとしていかに躍進できるか、誰もが参加して見ることできる。

